

会の魅力はもう一つあった。それは小林会長の人柄と会に対する姿勢であろう。秋田弁丸出しで聞き取りにくいこともあったが、ジョークを交えての話し方は妙に引き込むような魅力があった。また行事前には下見を入念に行い安全には十分配慮していることが窺われ、安心して参加できたのも魅力であった。20数年間の思い出は山ほど詰まっているが、強く記憶に残っている行事を簡記してみたい。最初に頭をよぎるのは高山植物の聖地とも言える岬山であろう。(H9年6月)荒々しい岩肌になり添うウスキソウや、人目を忍ぶアツモリソウなど今でも目に浮かぶ。2年後高山植物保護のため入山禁止となったので尚更想いは募る。苦しかった山と言えばイドナンナップ岳だ。(H13年6月)瘦せた尾根に連

- 一 大小の山に登りて体験の心に名山数々残れり
- 二 苦勞して頂上極め全方位 素晴らしい景色の迫りて感動
- 三 登りゆく風雪耐えし花々の美し姿に心洗わる
- 四 植樹林間伐をして日光の燦々当たり成長願ひ
- 五 内地まで足を伸ばしていろいろと 見聞広め知識豊かに
- 六 花々や木々の態様観察の その特徴の知る楽しさの
- 七 函館の山に登りて浦嶋草 我が名と対面感激し見し

札幌森友会に入会させて頂いてから本当にさまざまな山、森へ連れて行って頂きました。特に空沼岳、空沼の上を歩いて渡り山頂に立った嬉しさは忘れがたい体験でした。どの山も楽しく、時には苦しく数え切れないほどの山へ登ることができたのは、常に小林会長の先導のおかげです。冬山の何の目印もないような所でも、確かな足どりでもいつも無事に山頂へ導いて下さいました。本当に感謝してもしきれない気持ちでいっぱいです。そして忘れがたいすばらしい思い出がいっぱいです。会長、長い間本当に本当にありがとうございます。

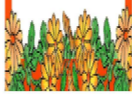
北山 ナオ子(豊平区)

感謝いっぱい、思い出いっぱい

H31年2月20日

### 皆さんからのお便り!

人生いろいろ 思い出いろいろ



森友会は思い出の宝庫

吉本 史郎(手稲区)

現役を終え第2の職場に勤めて4年目、知人に誘われて札幌森友会に入会したのは平成7年だった。記録をたどると参加回数は270回を越えていた(当初は休日が多かった)から、森友会は我がセカンドライフと共に入ったと言って過言ではない。他にも様々な団体に加入していたが、20年以上も続いたのは親友会だけである。当会に長く引きつけた魅力は何だったのだろうか。入会時の初参加は、鮫島先生を囲んで新春の草花の観察会(支笏、丸山地区)でありエンレイソウを詳しく学んだ。続いて樽前山縦走に参加し快晴に恵まれ360度の眺望を満喫した。次には篠舞国有林の記念樹林の下草刈りに参加し快い汗を流した。このように行事計画には、自然観察、登山、ボランティアと3本の柱がバランスよく組み込まれているため、選択肢が多く好きな行事に参加できるメリットが大きな魅力であったと思う。毎年立春のころ送付されてくる年間行事計画表と首びきで、参加行事を決めるのが大きな楽しみであった。



### 全国植樹祭記念の森(なごみの森)

### 皆さんからのお便り!

人生いろいろ 思い出いろいろ



思い出

浦嶋 好江(江別市)

平成4年6月、友達に誘われて初めてインクラの滝へ連れていってもらい札幌森友会に入会しました。それまで登山などあまりしなかったのですが、7月には旭岳から黒岳縦走に参加しすっかり山の魅力に取り付かれてしまいました。会長さんや会の人達から山の名前を覚えてもらったり、道端に控く花の名前を覚えてもらったりしているうちに、花にも興味をもち植物画を描くようになりました。狩場山、羊蹄山、暑寒別岳、岬山等々にたくさんの山へ連れていっていただきました。冬にはカンジキを履き真白な雪の中を歩き、動物の足跡を見たり、焚火を囲んで昼食を食べたり、急斜面では尻滑りをして楽しい思い出がたくさんできました。登山道のない冬山登山でも会長さんの案内で安心して参加させていただきました。平成15年からは夫も入会し、下北半島、佐渡島、奥尻島へも行き、テレビなどで行った所が写し出されると二人で懐かしく思い出話が盛り上がりします。私にとって初めての外国の旅、サハリンのチエーホフ山の登山も忘れられない山となりました。札幌森友会に参加させていただき登山の楽しさを知り、植物に関心を持つようになりとても有意義な時を過ごさせていただきましたことに感謝しております。会長さんや会員の皆さまありがとうございます。

お世話になりました

若浜 一恵(南区)

子育ても一段落、自分の時間が持てるようになり始めたその一つが登山です。高山にしか咲かない花に出合おうことができる」と札幌森友会に入会させて頂きました。平成9年頃でしたか：佐渡、立山、早池峰、尾瀬、屋久島等々：本州への山旅が思い出されます。柿の木の実が見えた時の感動は忘れられません。東北の言葉にホッと癒され、早池峰山の縦走では、ハラハラ、ドキドキ、遅れたら山のごみになると必死に歩きました。長い線路歩きで疲れてしまい、お昼がノドを通らなかつたけれど屋久島で雪を見たときは驚きました。その為、宮の浦岳には登ることが出来ませんでした。地の泥温泉も面白かつたし、ゴンドラに乗って中腹まで行きましたが濃霧で真っ白、何も見えなかつた蔵王、キヌカソウ、大きな葉にかこまれた白い花一輪見られて嬉しかつたなあ。北海道では見られない花です。別当賀フットパスは広い放牧地で馬のそばを通るとき、私たちに向かって近寄ってきて恐ろしい思いをしました。早めに引き返す組、金網の柵を越えなければならぬ所で、洋服が引き裂かれないようにと、やっと越えられ、やれやれ…。山が笑う。えっ、春に木々の芽がふくらみ始める頃、淡い色に染まるので、日本語の感性の深さを知りました。まだまだ見たい、行きたいところ所は沢山ありますが、悲しいかな80路になつた身では、気持ちだけで胸いっぱい。今でも目に浮かぶ思い出の風景の数々、これも一人旅では無し得なかつたことと、小林会長はじめ役員の方々の皆さまのお蔭と感謝の気持ちでいっぱいです。

小林文男会長ご苦勞様でした

上野 繁(南区)

突然のNPO法人解散の連絡があり驚きました。参加出来なくなって暫くなりますが、何かと気にはなっていたところでした。

それにしても、27年間の長い間大変ご苦勞様でした。昨年の実績を拜見しますと、35回、975人の多くの参加者がありました。会員皆様による森づくりから児童への森林体験学習と手の空暇もないご活躍が知られました。この日頃からの地域貢献活動の評価は、森林管理局長賞を始め数々を受賞されたことが何よりの証明でしょう。

駒岡小や藤の沢小での森林学習は、植林だけに終わらずに、下草刈りや補植、それと自分木の成長観察との一連の作業は、辛いながらも成人になった時その意味が実感されてくるとの長い目での配慮なのでしょう。そして地球規模で思いを馳せる大人になってほしいの思いなのでしょう。

私は僅か5年程の参加でしたが、メンバーの皆様から、また小学校の児童から森について多くの事を学ばせていただきました。例えば、あの茨戸での植栽計画・ドノ木植林・下草刈り・枝打ち・除伐と通年管理する中で、あの驚くべき成長と生命力は鮮やかに記憶しています。私の心の誇りでもあります。

高橋代表をはじめ皆様の一層のご活躍を応援申し上げます。

続けるコルをトラバースすることなく昇り降りをくり返す厳しいルートが続いた。そのため脚へのダメージが大きく、帰還バスのステップに脚が上がらないほどへばっていた。道外では屋久島遠征が強く印象に残っている。(H16年2月)宮之浦岳は予想外の大雪山で登山は断念したが、『縄文杉』との出会いはその神々しさに圧倒されてその樹勢は今でも脳裏に焼き付いている。悔しい思いをした山は日高カムイ岳だった。(H15年6月)川の徒渉距離があまりにも長くスニーカーを履いていたため足は冷え切って感覚がマヒしてしまい、7合目ほどでダウンしたのだ。沢登り用などの装備不足が悔やまれてならない。その他、隣に寝ていた仲間のイビキで一睡もできず翌日の登山に困難を極めたこと(大平山H21年7月、夕張岳H22年7月)。登山靴が合わなくて靴ズレでやっと思いで下山したこと(白馬岳H20年7月)。台風で登山道が塞がれヤブを漕いでの登山で、ウルシに被れて一週間ほど寝込んだこと(H13年8月)。

### 山

浦嶋 昭三(江別市)

用心深い小林会長には珍しく雷鳴とどろく風雨を突いて強行した登山(オプタシケ山H17年7月)。等々思い出は尽きない。一方森づくりについては数えきれないほど植樹をして育ててきたが、このフィールドにおいても小林会長の指導のもとで育んだ森は見事に再生していたように思う。森は単に植樹しただけでは育つものではなく、下草刈りや除伐、間伐など適宜人手を加えるのが不可欠であることを会長から重ねて学んだ。また通常一般人の入山できない国有林内でのボランティア活動の傍ら、会長から森林の成り立ちを学習し、あるいは樹木や草花の生育状況などについても学んだ。さらに季節折々の山菜やキノコ類の群生場所を案内してもらうなど楽しいイベントも盛沢山であった。その他書き出せばキリがなく、まさに札幌森友会は「思い出の宝庫」といえる。「もりのとも」最終号の紙面を借り方感の思いを込めて、小林会長をはじめ歴代の役員の方々に心からお礼を申し上げます。

H31年2月20日